



## CHAPTER 4

# ベスト プラクティス

Prime CM 機能に関する次のベスト プラクティスは、Prime CM アプリケーション全体の効果を上げる場合に役立ちます。

### ポーリング間隔

- Prime CM で 100 個以下のエンドポイントを管理しようとする場合、([Administration] 下) の [Device Monitoring Configuration] ページで設定されたデフォルトのポーリング間隔を保持します。
- Prime CM で 100 個を超えるエンドポイントを管理しようとする場合、セッションの頻度、またセッションのタイプ (アドホックまたはスケジュール済み) に基づいてポーリング間隔を定義します。  
100 個を超えるエンドポイントを管理している場合は、ポーリング間隔を長くすることを推奨します。  
たとえば、エンドポイントの登録情報の詳細を頻繁に変更しない場合、Endpoint Registration ポーリング間隔を 5 分から 30 分に増やします。
- インストール後、最初にログインしている場合、デバイスの検出を完了し、必要に応じて、ポーリング間隔は後で更新します。
- CTS-Manager および Cisco TMS スケジュール済みセッションのポーリング間隔が長すぎないようにします。ポーリング間隔が 24 時間に設定されている場合、Prime CM は過去 24 時間以内にスケジュールされたセッションのいくつかをモニタできません。

### 検出

- デバイス クレデンシャル プロファイルを定義しながら、確実に正しいデバイス タイプを割り当てます。このようにすると、検出時間が短縮されます。
- デバイス クレデンシャル プロファイルで IP アドレスのパターンを定義しながら ([Inventory] > [Device Inventory] > [Manage Credentials])、ワイルドカード文字 (\*) の使用を最小限に抑えます。ワイルドカード文字を使用すると、検出時間が長くなる可能性があります。  
ビデオ コラボレーション インフラストラクチャ デバイスには正確な IP アドレスを入力することを推奨します。
- ネットワークの更新頻度に基づいて、検出ジョブおよび再検出ジョブを定義します。ネットワークを定期的に更新している場合、検出ジョブを 1 週間に 1 回スケジュールリングします。  
ネットワークの使用頻度が最も低い場合に、このジョブをスケジュールリングすることを推奨します。
- デバイスで CDP を有効にします。
- HTTP を使用してデバイスの詳細を取得している場合は、HTTP ファイアウォールを無効にします。

- Web Services Management Agent (WSMA) を使用してデバイスの詳細を取得している場合は、WSMA をノード レベルで設定します。

### セッション モニタリング

- TelePresence 会議室が会議と関連付けられ、Prime CM で管理されるようにします。
- 会議のスケジューリング中に複数の会議室が関連付けられているようにします。
- CTS-Manager で、ステータスが with Error の会議がないようにします。これらの会議は Prime CM にインポートされません。
- CTS-Manager で、スケジュール設定時刻前にセッションを開始するよう設定している場合、Prime CM で同じ時刻を設定する必要があります。つまり、スケジュール設定時刻の 5 分前にセッションを開始するよう設定している場合、同じ時刻を [Device Monitoring Configuration] ページで設定する必要があります。
- CTS-Manager 1.7 または 1.8 を使用している場合、Reporting API 機能を設定する必要があります。
- TMS 13.0 または 13.1 を使用している場合、Booking API 機能を設定する必要があります。Cisco TMS 13.2 以上の場合は、Booking API 機能を設定する必要はありません。
- Prime CM アプリケーション用に CTMS および CTS-Manager でユーザ アカウントを作成後、そのアカウントで 1 回以上個々のシステムにログインしてから Prime CM サーバにクレデンシャルを入力することを推奨します。

### 障害管理

- ネットワークの該当するイベントとアラームのみモニタします。イベント モニタリングをカスタマイズするには、([Administration] の下の) [Event Settings] を使用します。

### システム設定

- Cisco Prime LMS および Cisco Prime NAM を使用してネットワークを管理している場合、これらのサービスを ([Administration] 下の) [System Configuration] ページで設定できます。トラブルシューティング ワークフロー中のデバイスの問題を分析するのに、これらの NMS を使用できません。